



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月31日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン 上場取引所 東
 コード番号 9832 URL https://www.autobacs.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 堀井 勇吾
 問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 高野 浩之 TEL 03-6219-8787
 四半期報告書提出予定日 2022年11月7日 配当支払開始予定日 2022年11月25日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	107,096	3.4	3,504	20.2	3,715	20.5	3,149	66.8
2022年3月期第2四半期	103,551	—	2,914	—	3,083	—	1,888	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 4,666百万円 (79.6%) 2022年3月期第2四半期 2,598百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	40.41	—
2022年3月期第2四半期	23.82	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	183,133	125,248	68.2	1,602.01
2022年3月期	189,910	122,892	64.5	1,572.48

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 124,875百万円 2022年3月期 122,549百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2023年3月期	—	30.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	0.6	10,000	△13.4	10,300	△8.4	6,900	△1.6	88.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	82,050,105株	2022年3月期	82,050,105株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	4,100,743株	2022年3月期	4,116,555株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	77,938,995株	2022年3月期2Q	79,304,110株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2022年11月1日に証券アナリスト・機関投資家向けにオンラインにて決算説明会を開催する予定です。なお、決算説明に関する資料等につきましては、当社ホームページに掲載を予定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大の第7波があったものの、個人消費の持ち直しの動きが続き、経済活動の正常化が期待されております。一方で、原油や原材料価格の高騰などを背景とした物価上昇や、急激な円安の進行による国内景気の下振れリスクなどの懸念もあり、依然として先行きは不透明な状況にあります。

国内の自動車関連業界の動向といたしましては、世界的な半導体不足の影響で新車の生産台数が減少し、加えて、中古車においても下取り車の流通量の減少により登録台数の低迷を招いております。また、カー用品関連においても、原油や原材料価格の高騰などによる物価上昇の影響もあり、厳しい市場環境におかれています。

当社グループにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、ご来店される地域の皆様、お取引先様、従事する従業員の健康と安全を最優先に、安心してご来店、就業できる環境整備に努めております。

このような環境下において当社グループは、社会・クルマ・人の暮らしの変化を捉え適応することで、市場競争力の向上に努めております。当社グループが向かうべき方向性を示す「5ヵ年ローリングプラン」では、より成長の可能性の高い領域への集中を図り、持続的成長と企業価値向上に向けてネットワークおよび事業基盤の強化と事業の推進をしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,070億96百万円（前年同期比3.4%増加）、売上総利益362億50百万円（同4.0%増加）、販売費及び一般管理費327億46百万円（同2.5%増加）、営業利益35億4百万円（同20.2%増加）、経常利益37億15百万円（同20.5%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益31億49百万円（同66.8%増加）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔国内オートボックス事業〕

国内オートボックスチェーン（フランチャイズ加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店および全店ともに3.9%の増加となりました。

国内オートボックスチェーンでは、新型コロナウイルス感染拡大や原油や原材料価格の高騰などによる物価上昇の影響が懸念される一方で、個人消費に持ち直しの動きがみられたことに加え、価格改定後の販売促進を強化したことなどにより、結果として堅調に推移いたしました。特に、新車・中古車の登録台数が減少したことによる、既存車に乗り続けるために必要な車両のメンテナンス需要の高まりを受け、関連商品とそれに伴うサービス工賃が好調に推移いたしました。

タイヤについては、メーカー値上げを受け、5月と9月の二度にわたり店頭での価格改定をいたしました。品ぞろえや販売促進、既存車のメンテナンス需要により好調に推移し、売上が増加いたしました。同様に、価格改定したオイルやバッテリーについても、効果的な販売促進に加えメンテナンス需要の高まりにより好調となりました。カーエレクトロニクスや車内用品については、新車減産の影響により需要が減少し、売上が減少いたしました。

プライベートブランドについては「AQ.（オートボックスクオリティ.）」を中心に展開を進めており、2022年9月には、スタッドレスタイヤの新商品「North Trek N5（ノーストレック エヌファイブ）」を発売いたしました。また、心躍るガレージライフを提案するブランド「GORDON MILLER（ゴードンミラー）」を展開するなど、さまざまなお客様のニーズを捉えた価値ある商品の開発・販売を推進しております。

車検・整備については、より安全・安心に車を走らせたいというお客様のニーズを背景に、スキャンツールを使用して車の状態を電子的に確認する車両診断のサービスが好調に推移いたしました。また、運転支援機能や自動運転機能が付いた先進安全自動車の整備を行う「自動車特定整備制度」への対応を進め、車検指定工場の全店が特定整備認証（電子制御装置整備）を取得しております。さらに、公式アプリや電話でのピット作業予約を推進し、特に公式アプリからの予約が増加するなど、お客様の利便性向上に寄与しております。

車検実施台数は、車検対象車両台数の減少を背景とした厳しい市場環境により、前年同期比3.6%減少の約31万2千台となりました。

車買取・販売は、新車減産の影響を受けたものの、中古車の単価上昇や買取台数の増加を背景にオークションへの販売が好調に推移いたしました。これらにより、国内オートボックス事業における総販売台数は前年同期比8.2%増加の約15千5百台となりました。

このほか、2022年9月16日には、フラッグシップ店舗である「スーパーオートボックス京都ワウワンダーシティ」をリニューアルし、新業態「A PIT AUTOBACS」ブランドの2号店として、“私らしいカーライフ”を提案する「A PIT AUTOBACS KYOTO SHIJO」を新たにオープンいたしました。出退店は、新規出店が1店舗、退店が1店舗、業態変更が1店舗あり、2022年3月末から増減なしの588店舗となりました。

これらの結果により、国内オートボックス事業の売上高は821億83百万円（前年同期比3.9%増加）となり、セグメント利益は72億95百万円（前年同期比0.8%増加）となりました。

〔海外事業〕

海外事業における売上高は68億18百万円（前年同期比26.8%増加）、セグメント損失は1億10百万円（前年同期は1億69百万円のセグメント損失）となりました。

小売・サービス事業においては、ウクライナ情勢や世界的なインフレの影響を受けたものの、売上は増加し、卸売事業においては新規取引先の開拓などにより、売上が伸びました。

フランスにおいては、インフレなどの影響があったものの、価格適正化などの対策を講じたことにより、売上は前年同期を上回りました。シンガポールにおいては、堅調な小売に加え、メンテナンス需要の増加によるピットサービスの好調により、売上が増加いたしました。マレーシアにおいては、92店舗に拡大したオーソライズドディーラーへの卸売が好調で、売上が大幅に増加いたしました。中国においては、上海のロックダウンがあり新規卸売先の獲得に苦戦したものの、中国国外への卸売を進め売上が増加いたしました。オーストラリアにおいては、カーエレクトロニクス商品や無線機が好調で、新たな卸売先の開拓や専売品の導入などの営業活動により、売上が増加いたしました。

海外における出退店は、新規出店が9店舗あり、2022年3月末の62店舗から71店舗となりました。

〔ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業〕

ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業における売上高は223億47百万円（前年同期比3.2%減少）、セグメント利益は28百万円（前年同期は2億55百万円のセグメント損失）となりました。

ディーラー事業は、当社の完全子会社である株式会社オートボックス・ディーラーグループ・ホールディングスがBMW、MINI、Audiの3ブランドの正規ディーラーを運営しております。世界的な半導体不足による新車減産の影響を強く受け売上が減少いたしました。効率的な運営に努め、前年同期を上回る営業利益を確保いたしました。

BtoB事業においては、社用車のメンテナンスやカー用品などの法人一括払いが可能となる「オートボックス法人会員制度」への加入件数が順調に増加しております。また、車検・整備・タイヤ販売を行う子会社においても、メンテナンス需要を背景に売上は堅調に推移いたしました。さらに、他業種への卸売の拡大を図るため、卸売専用プライベートブランド商品の開発を進めております。

オンラインアライアンス事業は、お客様の利便性向上のため、ECサイトで購入した商品を店舗で受け取るまでの時間をさらに短縮するなどの環境整備を進めております。加えて、飲酒運転の根絶を目指し、社用車を運転する前後のドライバーの酒気帯び状態をチェックし、その情報をクラウド上で管理する法人向けサービス「ALCクラウド」が順調に拡大しております。

〔その他の事業〕

その他の事業における売上高は31億32百万円（前年同期比26.0%増加）、セグメント損失は2億26百万円（前年同期は3億92百万円のセグメント損失）となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,800	22,579
受取手形及び売掛金	25,842	22,953
商品	21,516	25,643
未収入金	25,778	19,346
その他	10,033	10,724
貸倒引当金	△54	△38
流動資産合計	107,917	101,208
固定資産		
有形固定資産		
土地	24,529	24,999
その他(純額)	20,738	21,650
有形固定資産合計	45,268	46,649
無形固定資産		
のれん	2,215	2,104
その他	6,735	7,359
無形固定資産合計	8,951	9,464
投資その他の資産		
差入保証金	12,744	12,217
その他	15,046	13,610
貸倒引当金	△16	△17
投資その他の資産合計	27,773	25,810
固定資産合計	81,993	81,924
資産合計	189,910	183,133
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,702	14,634
短期借入金	1,724	937
未払金	14,480	12,632
未払法人税等	1,987	1,267
その他	10,901	10,578
流動負債合計	46,795	40,049
固定負債		
長期借入金	4,917	5,741
引当金	19	19
退職給付に係る負債	3,233	338
資産除去債務	2,675	2,701
その他	9,377	9,033
固定負債合計	20,223	17,835
負債合計	67,018	57,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,156	34,156
利益剰余金	59,442	60,247
自己株式	△7,016	△6,988
株主資本合計	120,581	121,414
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,308	1,930
為替換算調整勘定	1,065	1,531
退職給付に係る調整累計額	△1,406	—
その他の包括利益累計額合計	1,967	3,461
非支配株主持分	342	372
純資産合計	122,892	125,248
負債純資産合計	189,910	183,133

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	103,551	107,096
売上原価	68,679	70,845
売上総利益	34,871	36,250
販売費及び一般管理費	31,957	32,746
営業利益	2,914	3,504
営業外収益		
受取利息	26	29
受取配当金	43	42
持分法による投資利益	—	49
情報機器賃貸料	314	324
その他	484	515
営業外収益合計	868	961
営業外費用		
支払利息	41	36
持分法による投資損失	32	—
情報機器賃貸費用	292	297
固定資産除却損	18	36
その他	315	380
営業外費用合計	699	751
経常利益	3,083	3,715
特別利益		
移転補償金	—	286
退職給付制度終了益	—	891
特別利益合計	—	1,177
税金等調整前四半期純利益	3,083	4,892
法人税、住民税及び事業税	1,005	1,231
法人税等調整額	177	513
法人税等合計	1,182	1,744
四半期純利益	1,900	3,148
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,888	3,149
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	11	△1
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	587	△379
為替換算調整勘定	△19	411
退職給付に係る調整額	109	1,406
持分法適用会社に対する持分相当額	20	79
その他の包括利益合計	697	1,518
四半期包括利益	2,598	4,666
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,595	4,643
非支配株主に係る四半期包括利益	2	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート バックス 事業	海外事業	ディーラ ー・BtoB・ オンライン アライアン ス事業	その他の 事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	76,704	5,225	18,827	1,626	102,384	—	102,384
その他の収益	864	—	—	302	1,166	—	1,166
外部顧客への売上高	77,569	5,225	18,827	1,928	103,551	—	103,551
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,501	150	4,268	557	6,477	△6,477	—
計	79,071	5,376	23,095	2,485	110,029	△6,477	103,551
セグメント利益又は 損失(△)	7,239	△169	△255	△392	6,422	△3,508	2,914

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△3,508百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート ボックス 事業	海外事業	ディー ラー・BtoB・ オンライン・ アライアン ス事業	その他 の 事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	79,276	6,508	18,006	2,131	105,922	—	105,922
その他の収益	860	—	—	313	1,174	—	1,174
外部顧客への売上高	80,136	6,508	18,006	2,445	107,096	—	107,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,046	310	4,340	686	7,384	△7,384	—
計	82,183	6,818	22,347	3,132	114,481	△7,384	107,096
セグメント利益又は 損失(△)	7,295	△110	28	△226	6,986	△3,482	3,504

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△3,482百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。